

一般質問通告書

【第79回定例会】

多可町議会議長 清水俊博 様

多可町議会議員 大山由郎



受領日	番号
平成29年8月24日 午前・午後8時30分	/

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 安心して学べる環境を強化せよ。	教育長
別紙にて	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

①全国的に、登下校中の児童が巻き込まれる事故が多発している。平成24年4月23日、京都府亀岡市で集団登校中の小学生の列に軽自動車が突っ込み、小学生と保護者計3名が死亡、7人が重軽傷を負う交通事故が発生した。この事がきっかけになり通学路の安全点検が全国一斉に実施された。

多可町では、「子ども見守り隊」や「子ども110番の家・子ども110番の車」との連携、青色防犯パトロールカーによる通学路などの巡回指導、また、「多可町通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路の安全に取り組んでいるが、危険個所の把握など通学路の安全対策をさらに強化すべきだ。

②近年、体育関係の事故が増加している。また、多くの関係者が予想もできないような事故も含まれている。「スポーツに怪我はつきもの」などといわれて久しいが、子どもたちの健全育成を願い、様々な事故から生徒を守るために最大限の努力をするべきだ。また学校での部活動中の事故対応も大切な事だが、その対策はどうか。

③教員の過重労働が文科省の調査で裏付けられた。勤務実態調査の結果を見れば「過労死ライン」を上回る尋常でない働き方がわかる。学校の勤務時間はどの国でも突出している。

文科省は、教員の負担軽減に向けて、業務の効率化や外部委託、休養日の設定などで乗り切るつもりのようなようだ。しかし、先生に時間の余裕、心の余裕があつてこそ、いじめ、貧困、虐待など、子どもの異変に気づき最良の対応につながる。

疲弊する教育現場のしわ寄せを被るのは子どもたちだ。町内の学校でも「働き方改革」など、抜本的な対策が必要だ。